





●足立支部 中村代議員  
公務外との闘いを準備しよう



中央委員席

新規採用がなく、平均年齢が上ってきている。公務外とする事例が出てき

労働災害や公務災害の発生状況をまとめて明らかにしてほしい。労働安全衛生

●本部答弁 大和田副委員長  
行政職組合員と意見交換し取り組み

委託に関わる問題点について、どういう対応をしてきたのかを克明に記録に残す取り組みをしようという意見は受け止めさせていた

遺児育英資金カンパは、労働組合の大切さを教えて

いるわけではない。一組に多数行政職の組合員がいることは承知している。意見交換をし、要望を取り上げて取り組みを進める。

●江戸川工場支部 中里代議員  
区民は正規か非正規は問題にしない

偽装請負と安全・安心な事業展開については、積極的に検討して欲しい。区民にとっては、正規か非正規

公務災害の事例や集約は、全体の中で活かし共有できるようにしたい。

公務災害や労働災害、労働安全衛生に関する学習会を現業部で企画立案し準備している。

●本部答弁 大和田副委員長  
組織全体で議論を進める

検討する。職場から議論を作り出さなくてはならない。区民にとっては、職員として区民に対して展開さ

●本部答弁 大和田副委員長  
しかし実態としてはグレーである

足立区の窓口業務とわれわれの場合には根本的に違

れるものだ。組織全体で議論を進める。

●光が丘工場支部 箱田代議員  
偽装請負、早急な対応が必要だ

足立区の窓口業務について、偽装請負だと報告が出た。清掃も誰かが駆けこん

●本部答弁 大和田副委員長  
しかし実態としてはグレーである

足立区の窓口業務とわれわれの場合には根本的に違

第2号議案  
組織財政方針(案)に対する質疑応答

●練馬支部 松永代議員  
中央でスペシャリストを育てよう



区交渉で作業計画交渉を進めていると、10年先20年先の清掃事業をどうやっていくかが問われる。中執の大事な任務は政策研究だ。支部でも自分のわかる範囲で当局と対応するが、他の自治体のことをかき回す。この課題を解消しなくては区と今

後対応出来ない。担当部長まで専従にして欲しいぐらいだ。スペシャリストを中央で育て、区交渉のときの引き出しを提供して欲しい。そのための財政支出は当然だ。

●杉並支部 山口代議員  
専従の任務を整理し必要ならば増員を



中執が執行機関としての役割を担っていない。今後区選出の中執は区交渉に集

う。その任務を担う人を育てていこう。財政難であっても、使うべきときにお金を使って、作り出せるものを作り出そう。事業のあり方で当局とぶつかり、新規採用を勝ち

取ってきた。お金はあるが、組織が無くなっては意味がない。今使うべきお金を有効に使う。何十年にもわたって清掃事業が残るように取り組もう。

演壇



▲組織財政方針(案)を提起する額副委員長

力体制が十分出来ていない。できた月一回の常任委員会でも、原点に立ち返り、組織強化を図ることが求められる。本部の執行体制で、専従の増員が出されている。2名の増員が限界だと書かれている。財政が厳しい中では、専従の任務を整理し、必要であれば増員すべきである。増員で負担を軽くし、

第二地連で議長をやった立場から発言する。地連で組織部・教宣部・現業部を立ち上げ、4区5支部の垣根を越えた交流が出来る。若い人が安心して働ける職場を残そう。生きたお金の使い方をしよう。

●北支部 金子代議員  
若い人が安心して働ける職場を



地連役員との定例会議を持つことに賛成する。ただ労働者の取り組みを具体化する

若い人が安心して働ける職場を残そう。生きたお金の使い方をしよう。



●葛飾支部 松浦代議員  
 儀救という財産を活用すべきだ



支部として、この方針に賛成する。今の本部は司令塔になっていない。機能不全に陥っている。このままでは23区の清掃事業と私たちの組織が沈没する。今が正念場だと組織財政をより良いものによいと

●江東工場支部 内山代議員  
 一組総支部の体制のあり方も



本部体制にあり方の提

起、やっそこまで来たのだと感ずる。この方向を進めば、各支部や地連の役割もあらためて見えてくる。一組総支部の体制のあり方も考えている。再任用の活用も必要だ。当局との交渉



●本部答弁 瀨瀬副委員長  
 全組合員が納得していただける形で



本部提起に賛成し、儀救の取り崩しは必要だとの意見だと受け止める。犠牲者救済資金は、区移管闘争に備えて、多くの先輩方も

●渋谷支部 成島代議員  
 どういう組織を作るのかまだ見えない



組織と財政は一体だ。専

従の増員で財政支出がどうなるかをシミュレーションで示すべきだ。組合員は減少していく現実を踏まえるべきだ。

お考えがあれば伺いたい。何をすればいいのか、どう

●一組本庁支部 岩田代議員  
 15年経ちどう総括するか問われている

今本部は危機に陥っている。滝野川大会で東京清掃

組合員の帰属問題では、一組の行政職も清掃事務所

ない。車付雇上の問題を解決し、新規採用を獲得す

●世田谷工場支部 山崎代議員  
 担い手の健康も考えてあげて欲しい

5月に喉頭がんが見つかり、50日休んだ。放射線治療をして復帰した。23歳で

昭和48年に高卒で清掃局に入った。大会で儀救の積立

ごみとの分別基準が緩やかな区がある。本部による各

●本部答弁 瀨瀬副委員長  
 どう組合を作るのか肝に銘じて

本部が危機に陥っているとの認識を私たちが持っている。存続させられるかどうかの瀬戸際にいる。有数

専従を増やすこととなれば、車付雇上問題を含めて、政策的なもの認識を作り

上げて各区と関わっていく。儀救を有効に使うための声はありたい。どう組合を作るのか肝に銘じて進めていく。



